

大きな愛で人にやさしい

2025年 4月
 ナンバー64号
 帯広市議会議員
 大林愛慶
 おおほやしやすよし
 後援会ニュース



「新春のつどい」に、多くの皆さまのご参加をいただきありがとうございました。

第1回帯広市議会定例会が2月27日から3月26日まで開催されました。

米沢のりひさ市長の4期16年目仕上げの予算が審議され、宿泊税の条例制定をはじめ、一般会計937億1800万円の事業予算を可決いたしました。

物価高が続く中、保育所等の副食費の保護者負担軽減、給食食材費の補填、水道料基本料金の6か月間の免除など、市民生活を守るため「11億5900万円」を対策費として執行します。



あなたと創る
 “国民が主人公の政治を”

参議院議員選挙に
 私たちの思いを

2025年度（R7）帯広市 各会計予算

会計名	予算額
一般会計	937億1,800万円
国民健康保険会計	155億7,700万円
後期高齢者医療会計	31億4,500万円
介護保険会計	170億0,300万円
中島霊園事業会計	6,300万円
ばんえい競馬会計	527億2,000万円
駐車場事業会計	7,500万円
上下水道会計	151億6,200万円
総合計	1,974億9,500万円

現在、通常国会では新年度予算をはじめ多くの法案が審議されています。

昨年10月の衆議院議員選挙で過半数座れとなった自民党。新たな「10万円商品券」お土産問題も発覚し、政治と金の問題の改善が進んでいません。

7月には「参議院議員選挙」も予定されており、「物価高騰」に「賃金も年金も」追いついていない状況を改善するため、政治を変える大変重要な選挙となります。

税金の使い道が問題ではないでしょうか。

物価高騰で生活が厳しい中で、軍事費増大よりも社会福祉に手厚く、安心して「子育て・労働・高齢者」が暮らしていける、生活を守る政策に使用すべきです。

新年度予算等の討論 (要旨)

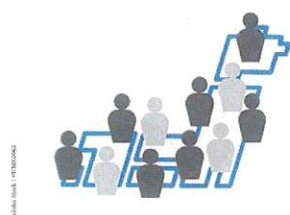


新年度は「米沢市長」4期目の「総仕上げ」の取組み・予算となります。
「すべての市民の幸せを判断の基準に」これまで、まちづくりを一貫して進めてきました。

最悪の「コロナ禍」からは、脱出しつつあるものの、「物価高騰」「少子化」「地球温暖化の進行による大災害の頻発化」など、日本各地域でその影響が、市民・住民に厳しく出始めています。これまで米沢市長は、「フードバレーとかち」の取組みを通して、農業基盤整備や、食関連産業の振興、良品な食料の自給率の向上策と、備蓄・加工・配送拠点の整備も進めてきました。

「食の高付加価値化」、そして「とかちの価値の向上にむけ」、「人材育成・起業化の取組」など努力されてきたと考えます。

また、防災・減災の取組みとして、耐震化や避難所の機能強化や、安心して「産み・育てられる環境整備」を進め、今やるべき、将来への取組みが、**十勝・帯広の可能性を高めてきたと評価**するところではあります。



しかし、「物価高騰」「少子化」「人口の一極集中」「人材不足」など、大きな課題が日本中に発生しており、一自治体で解決することが難しい中ではあります。国よりも先んじて取り組んできた、「フードバレーとかち」を活かし、「持続性ある、持続性ある」まちづくりを進めていくことが必要です。

今、世界は「苦境」に向かう流れが発生しているのではないのでしょうか。

ウクライナ・ロシアの侵攻問題、イスラエルとガザの戦闘問題など、一時期は停戦になったものの、戦闘が再発し、おさまりを見せません。

また1月にはアメリカ大統領にトランプ氏が就任、自国第一主義や関税政策などで、世界の経済の混乱が予想されています。

一番危惧することは、「核抑止力」を唱える勢力の拡大の流れが、「世界の平和と経済」が「力」により、大きく脅かされつつあることです。

原爆投下・戦後80年を迎える日本にとって、世界平和への希求、核なき世界への取組みは重要な局面を迎えていると考えます。

日本の役割は重要さを増しています。

国内に目を向ければ、「いじめや自殺・ひきこもりの増加」「特殊詐欺の凶悪化」「企業間格差、所得格差、男女格差」などが起因とした、多くの社会問題が発生している中、安心して、心豊かに暮らせる「**地域と人のつながり**」が求められています。

地域の価値を高め、地域の豊かさを作っていくのは、

「市民一人ひとりの力」であり、「**一人ひとりの行動と協働**」であると感じます。



今後を見通すことが難しい「今」ではあります。米沢市長がその先頭に立ち、揺るぎない指導性、行動力を、多くの市民が期待しています。

市民とともに、「人を、地域を、自然を」大切に、活力ある、持続性ある「まちづくり」に、今後も一層奮闘いただきたいことを申し上げ、立憲民主・市民連合を代表しての討論といたします。

